

令和7年度

# 研究紀要



秋田県立能代科学技術高等学校

# 令和7年度 秋田県立能代科学技術高校 研究紀要 第5号

## 目 次

○「研究紀要 第5号」刊行によせて	校 長	藤 原 孝 一	…… 2
○校外研修			
1 中堅教諭等資質向上研修	保健体育科	野 呂 裕太郎	…… 3
2 高等学校教職8年経験者研修	工 業 科	鈴 木 清太郎	…… 5
3 高等学校新任学年主任研修を終えて	社 会 科	毛 利 美 樹	…… 7
4 資質・能力の育成に向けた授業づくり	家 庭 科	齊 藤 瑞 穂	…… 8
5 主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり	福 祉 科	中 屋 愛	…… 9
○校内研修			
1 校内授業研修	概要・日程		…… 10
・機械設計	工 業 科	鈴 木 清太郎	…… 11
・文学国語	国 語 科	山 崎 静	…… 13
・保 健	保健体育科	野 呂 裕太郎	…… 16
2 令和7年度県北地区高等学校特別支援教育研修会	教育相談部	伊 勢 奈緒子	…… 18
3 救急救命講習	研 修 部	山 崎 仁 志	…… 20

## 「研究紀要 第5号」刊行によせて

校長 藤原孝一

本校職員の研修成果のまとめである「研究紀要 第5号」の発刊にあたり、この紀要を編纂していただいた研修部及び原稿を寄せていただいた先生方に感謝申し上げます。

秋田県教育委員会は2025年、本県の未来を支える若者たちの学びを見据え、「第4期あきたの教育振興に関する基本計画（令和7～11年度）」と「第八次秋田県高等学校総合整備計画（令和8～17年）」を正式に決定しました。第八次計画では「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人材を育てる教育活動の推進」と「時代の変化に対応した特色ある学校づくりの推進」の2つを大きな柱としています。

また、現在、日本では約10年に一度行われる学習指導要領の改定に向けた議論が中央教育審議会でも本格化しています。議論の中心となっているのは、現行の「資質・能力の3つの柱」を継承しつつ、社会の変化に対応するための以下の3点です。次期学習指導要領は、今年の夏ごろまでに大枠の方針がまとめられ、年内に最終的な答申（案）が出される予定です。

- 「主体的・対話的で深い学び」の実装（Excellence）
  - ・知識の丸暗記（正解主義）から脱却し、各教科の核となる「中核的な概念」を深く理解し、生活や社会で活用できる力を重視
- 多様性の包摂（Equity）
  - ・不登校、障がい、外国人児童、特異な才能（ギフテッド）など、多様な背景を持つ子供たちが、それぞれの特性に合わせて学べる環境（インクルーシブな視点）の強化
- 実現可能性の確保（Feasibility）
  - ・教員の働き方改革を考慮し、授業内容を詰め込みすぎず、学校が創意工夫できる「余白」の設定

これらの教育改革を現場で確実に実現していくためには、校内研修の充実が不可欠です。教職員が共通のビジョンを持ち、互いに学び合いながら実践を深めていくことが、子どもたちの学びの質を高め、学校全体の教育力を向上させる鍵となります。特に、次期学習指導要領で求められる「深い学び」や「多様性の包摂」を実現するには、日々の授業改善やチームとしての協働が重要です。

そのためにも、校内研修を単なる“研修の場”にとどめず、対話と実践をつなぐ場として位置付け、継続的に取り組んでいくことが求められています。

この研究紀要は、本校教職員が日々の実践を通して得た学びや気づきをまとめたものです。この紀要に記載された内容から読み取れる課題について、ご意見やご助言をいただければ幸いです。

# 中堅教諭等資質向上研修を振り返って

保健体育科 教諭 野呂 裕太郎

## 1 はじめに

本研修は、教育公務員特例法第24条の規定に基づき、現職研修の一環として研修を実施し、中堅教諭として必要とされる資質の向上を図ることを目的とし、中堅教諭としての自覚や学校経営参画意識を高め、個々の能力、適性等に応じて、ミドルリーダーに必要とされる資質の向上を図ることを目標とし、高等学校の教諭として採用されて在職期間が10年に達する教員を対象として実施された。

## 2 校外研修

### 【秋田県総合教育センターの研修講座】

I期：令和7年6月24日（オンライン研修）

#### 【開校式】中堅教諭等への期待（全校種合同）

- 教育公務員の服務（講義・演習）
- 学校の危機管理（講義・演習）
- 質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略（講義：秋田大学大学院 成田雅樹教授）

II期：令和7年8月5日

- 高い専門性に基づく教科指導の充実と推進（講義・協議・演習）

III期：令和7年9月18日

- 人間としての在り方生き方を考える道徳教育（講義・協議・演習）
- いじめの理解と対応（講義）
- 気になる生徒の事例を通じた具体的対応の理解（講義・協議）

IV期：令和7年10月21日

- 学校全体で取り組む情報教育（講義・演習）
- キャリア教育の推進（協議）
- 学校組織の一員としてーキャリアデザイナーー（講義・演習）
- これからの学校教育（講話）

#### 【閉講式】中堅教諭等資質向上研修を終えるに当たって（全校種合同）

### 【高校教育課の研修「授業研修」】

実施日：令和7年9月3日

研修先：秋田県立男鹿工業高等学校（設備システム科2年）

授業内容：科目保健 「9.労働災害と健康」

今研修では、「労働災害と健康」を単元として取り上げ、労働災害の種類とその原因について事例を考えさせることで、労働災害防止に必要な健康管理と安全管理について理解する授業を実施した。事前に学習指導案について保健体育課の佐藤幸彦指導主事より指導をいただいていたものの、他校での授業実践ということで、生徒の実態やクラスの雰囲気などが見えない中での教材研究には正直苦勞した。授業では、タイムリーな話題を用いた導入については良かったものの、その後の労働災害の

説明不足により、内容が生徒にうまく伝わらず、グループ活動でも話し合いが深まらなかった点が課題として挙げられた。佐藤指導主事や各先生からも時間配分や労働災害の説明を、生徒に合わせてもう少し分かり易くする必要があるという助言をいただき、自己の教材研究不足を実感したとともに、この経験を今後の授業にうまく還元していく必要があると感じた。

今研修では、実際の授業実践や他研修者の授業も参観させていただいた。また多くの助言をいただくことができた。これらの貴重な内容を参考にし、また授業改善に取り組んでいければと思う。

### 【選択研修】

実施日：令和7年7月30日～8月1日（3日間）

研修先：サイエンスパーク能代市子ども館

研修内容：施設見学、受付体験、プラネタリウム投影体験、モデルロケット制作打上体験、銀河連邦子ども交流会実施補助、プログラミング体験、子ども館体験活動補助

## 3 校内研修

校内での研修に際しては、研修者事前評価の結果に基づき、現代の生徒の実態に即した効果的な生徒指導力と教科等指導力の向上を目的とし取り組んだ。研修では、校長先生より研修の目的や意義、それに、特定課題研究、選択研修の進め方について研修をしていただいた。教頭先生からは実際の授業を参観していただいた上で授業実践の具体的な助言をいただいた。各分掌主任の先生方からはホームルーム経営や生徒指導、キャリア教育、教育相談等に関連した研修をしていただいた。教科指導においては、指導主事訪問と兼ねて実施された校内授業研修会での実践も含め、教科の先生方より指導案の作成や教材研究等で多くのアドバイスをいただき、自己のレベルアップを図ることができた。

## 4 特定課題研究

研究テーマを「特別支援教育における現状と課題の分析」とした。本校は県内唯一の工業科と農業科を併設し、卒業後も各方面で活躍している生徒が多数いる。一方で、能代地域では、学習面や生活面で様々な問題を抱える生徒が多く入学、在籍しており、地域からもそのような生徒への教育的ニーズも大きい。今研究では特別支援教育の現状や本校生徒の実態、本校における特別支援教育の取組、それに全国での特別支援教育の取組など、幅広く調査する機会をいただいた。

今研究に取り組んでの大きな成果は、やはり自校の現状を把握することができたことである。私自身も特別な支援を要する生徒と関わる中で課題を感じることもあるが、今回の取り組みで得た内容を、今後の生徒との関わりや指導に活かしていければと思う。

## 5 おわりに

今研修では、校外研修はもちろんのこと、校内研修では自校の多くの先生方から貴重な時間をいただき研修していただいた。各先生方に感謝するとともに、まだまだ自分に足りない部分が多く見つかった研修であった。この10年という期間を振り返ると、率直に言って「あっという間」であったと感じる。その中で自分自身の中に成長を感じる部分もあれば、まだまだ足りない部分も多々見つかった。今研修を通して、そうした自己のこれまでの「振り返りと評価」ができたことは成果である。

「教員は何歳になっても学び続けなければならない」という言葉があるが、今後も常にその意識をもち続けながら研究と修養に励み、その時代に合った正しい指導をしていければと思う。

## 1 概要

### (1) 対象

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教諭として採用されて8年目（他県教諭経験年数を  
含む）で、今年度高等学校に所属する教諭

### (2) 目的

自己理解に基づき、個々の個性・適正、分掌等に応じた資質能力の向上を図る。

## 2 日程

### I期 6月15日（水）

- |             |   |
|-------------|---|
| 10:00～10:15 | 開講行事・オリエンテーション                              |
| 10:15～11:40 | 〈講義・演習〉いじめや不登校の未然防止と対応                      |
| 11:45～11:55 | 〈説明〉「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて<br>～「連携・協働」の3つの提案～ |
| 12:55～14:55 | 〈講義・演習〉教育活動全体を通じたキャリア教育                     |
| 15:05～16:05 | 〈講義・演習〉学校組織の一員として<br>ー自己理解に基づく目標設定ー         |

### II期 7月23日（水）

- |             |                                  |
|-------------|----------------------------------|
| 10:00～10:05 | オリエンテーション                        |
| 10:05～12:00 | 〈講義・演習〉カリキュラム・マネジメント             |
| 13:00～15:20 | 〈講義・協議・演習〉カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善 |
| 15:30～16:05 | 〈まとめ〉カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善      |
| 16:05～16:15 | リフレクション                          |

## 3 所感・感想など

I期では「いじめや不登校の未然防止と対応」について、潜在化しやすく見えにくい「いじめ」に  
どう向き合うべきかを学びました。特に加害者への指導や対応については、今後の実践に活かして  
いきたいと考えています。キャリア教育においては、単なる進路活動に留めず、各教科や学校行事  
と関連付ける重要性を再確認しました。今後は校内完結ではなく、地域と連携した「地域に根ざし  
たキャリア教育」を推進していきたいです。また、教職員マネジメントを通じ「資質・力量マップ」  
を用いて自身の強みと弱みを可視化したことで、今後の自己研鑽における明確な課題を見出すこと  
ができました。

II期では、カリキュラム・マネジメントについて学び、本校の教育目標達成に向けた授業改善と  
教育課程の編成の必要性を理解しました。演習での他校の課題解決に関するグループワークでは、  
本校でも応用可能な多くの手立てを学ぶことができました。特に「カリキュラム・マネジメントを  
軸とした授業改善」では、工業科の魅力をいかに伝えるかについて議論を深めることができ、教材  
の工夫や生徒の興味・関心を引き出す授業づくりの重要性を実感しました。

I期・II期の研修を通して、生徒指導における自身の課題が明確になりました。今後はカリキュ  
ラム・マネジメントの視点を持ち、工業科の魅力を最大限に伝えながら、教育目標の達成に向けた  
授業実践に取り組んでまいります。

4 Ⅱ期〈講義・協議・演習〉カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善で作成した指導案

工業科 学習指導案

日 時 令和7年6月12日(木)  
第6校時 14:25~15:15  
対 象 第3学年1組24名

(1) 本時の目標

キルヒホッフの第二法則における電圧の関係について考える。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点 ・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ キルヒホッフの第一法則の定義を確認する。</li> <li>・ 前回の授業で学んだことを生徒に発問する。</li> <li>・ 本時の目標を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わからない人は、ノートで確認し、前回の学習内容を確認する。</li> <li>・ 黒板に目標を明示する。</li> <li>・ 授業の流れと評価の基準について明示する。</li> </ul>	
<p><b>【本時の目標】</b> キルヒホッフの第二法則における電圧の関係について考える。</p>			
展開 ① 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ キルヒホッフの第一法則をシミュレータで確認する。</li> <li>・ 一人1台の学習端末を活用し、回路の電流を測定し、第一法則の関係性をワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間指導を行いながら生徒の学習活動を確認する。</li> </ul>	
展開 ② 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ キルヒホッフの第二法則をシミュレータで確認する。</li> <li>・ 一人1台の学習端末を活用し、回路の電圧を測定し、ワークシートに記入する。</li> <li>○ 測定結果から関係性について考える。</li> <li>・ 測定結果を見て、電圧の関係について自身の意見をワークシートに記入する。</li> <li>○ グループワークを行い、他者の意見を確認する。</li> <li>・ 二人一組で関係性について話し合いを行い、他者との意見を参考にしながら自身の意見をワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間指導を行いながら生徒の学習活動を確認する。</li> </ul>	イ(ワークシート)
<p><b>【評価基準】</b> A・・・測定結果から、起電力と電圧降下の和が等しいことに自ら発見し、他者に教えることを行っていた。 B・・・電圧の測定を行うことができていたが、他者からの意見を聞きながら、起電力と電圧降下の関係性に理解した。 C・・・本時の目標を理解できず、電圧の関係が理解できなかった。</p>			
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習を振り返る。</li> <li>・ 本時の学習内容をワークシートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キルヒホッフの第二法則の関係性をまとめ、次回の設計の学習につなげる。</li> </ul>	

○ カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた授業改善について

本校のカリキュラム・ポリシーとして「幅広い教養を身に付ける」ことを行い、科学的な視点と思考力、ICT活用能力を高める授業を実施することを目標にしている。

本時の授業では、科学的な視点と思考力を身に付けるために1人一台端末を活用し、シミュレータで電気回路内の電流や電圧を測定し、自身の思考や判断で規則性や法則などを導くことができるように工夫した。また、同時にICT機器を自主的に活用することでICT活用能力向上も目指した。

授業改善の手立てとして、生徒に配付したプリントに自己評価を記入させ、机間指導で学習状況を記録したものと照らし合わせながら授業改善を行った。今回の授業では、全生徒がおおむね理解している状況であり、今後もICT機器を活用し、科学的な視点と思考力を身に付けるような授業を展開する。

## 高等学校新任学年主任研修を終えて

毛利 美樹

### 1 概要

- (1) 対象：高等学校の新任学年主任 過年度の該当者で未受講者  
 (2) 目的：学年経営に関する理論と実践の在り方についての研修を通して、実践的な指導力を高める

### 2 日程

期	日 時	研 修 内 容	指標における主な項目	
I	5/16 (金) 10:00~16:15	○望まれる学年主任像と学年主任の役割(講話)	3S	マネジメント能力
		○生徒指導における学年主任の役割(講義・演習)	3S	生徒指導力①②③
		○思春期の揺れと成長を共に歩む(講話:A-33と合同) 秋田赤十字病院心療センター 臨床心理士 丸山 真理子	3S	生徒指導力①③④
II	6/27 (金) 10:00~16:15	○学年経営と組織マネジメントの基礎(講義・演習・協議)	3S	マネジメント能力①③
		○公開講演「特別活動を要としたキャリア教育の推進」 (A-33、C-29、C-30と合同) 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 長田 徹	3S	教育課題への対応①
		○学年経営の実際と運営(講義・協議)	3S	マネジメント能力① 教育課題への対応③

### 3 所感・感想など

II期にわたる新任学年主任研修を通して、学年主任として求められる役割と学年経営の基盤について、多角的に学ぶことができた。

I期では、望まれる学年主任像や生徒指導における役割について講話や演習を通して理解を深めた。特に、生徒指導に関する事例検討では、具体的な場面をもとに判断の視点や対応の在り方を整理することができ、日頃の実践を振り返る貴重な機会となった。また、思春期の生徒の揺れに寄り添う姿勢の重要性を再確認し、生徒理解の視点をより一層広げることができた。

II期では、学年経営に必要な組織マネジメントの基礎や、特別活動を要としたキャリア教育の意義について学んだ。講義や協議を通して、学年運営には計画性と柔軟性、そしてチームとしての信頼関係が不可欠であることを実感した。また、キャリア教育が生徒の主体的な学びを支える重要な要素であることを改めて認識し、学年経営の中でどのように位置づけていくかを考える契機となった。

今回の研修で得た知識や気づきは、学年主任としての視野を広げるとともに、学年運営の質を高めるための大きな手がかりとなった。今後は、学んだ内容を日々の実践に生かし、生徒一人ひとりの成長を支えるとともに、学年全体の調和と発展に寄与できるよう今後も研鑽を重ねていきたい。

# 資質・能力の育成に向けた授業づくり

## —高等学校家庭科—

家庭科 斉藤 瑞穂

### 1 概要

#### (1) 対象

高等学校家庭科教員

#### (2) 目的

高等学校家庭科における「家庭や地域の生活を創造する資質・能力」の育成に向けた、単元構想や授業づくり、授業展開の工夫などについて

### 2 日程

5月20日(火)

10:00～10:10 オリエンテーション

10:10～12:00 〈講義・協議〉

学習指導要領の趣旨を踏まえた、高等学校家庭科の授業づくり

13:00～15:00 〈講義・協議・演習〉

資質・能力の育成に向けた高等学校家庭科の授業の実際

15:10～16:05 〈協議・演習〉

単元構想及び指導計画の作成

16:05～16:15 〈リフレクション〉

### 3 所感・感想など

始めに、授業が「型」になってしまい教師側にとって目線がそろいやすいものになっている課題があげられた。生徒にとって必要感のある課題設定がなされていないならば、生徒がその課題解決に向けた授業が展開されないと指摘された。授業づくりについては、学習指導要領、教科書、生徒の多様性、ICTなどなど考えることは沢山あるが、根本的に押さえておくべき「ねらい」を見失わないようにしていかなければならないと再確認できた。授業後の生徒の頭の中をどのように変えたいのかというイメージを明確にすることで、授業内の活動にたどり着くのだと理解した。さらに、その活動が個別最適な学びになっているのか、その都度振り返ることが大切であると同時に経験を積む必要がある。

SMBコンシューマーファイナンス株式会社の金融経済教育セミナーの投資についての生徒むけの出前講座を実際に実施していただいた。投資体験をゲームのように体験し、短時間でも実際のドキドキ感を味わい印象的であった。この授業で利益が出て安易にさまざまな金融商品にはまってしまうことのないよう、判断は慎重にさせたいと思う。この講義をきっかけに、実際本校2年生の家庭総合で利用した。私たち教員では、深く切り込めない「投資」についてわかりやすく伝えていただくことができたと思う。プロの話は実体験から出る言葉なので、生徒にしっかり届いていた。学習したことの確認ができ将来活用できる金融リテラシー検定にも挑戦させたいと考えていたが、実施までいかなかった。

指導計画の作成は、演習の時間内でまとめるには無理があった。日常の授業も待ってくれないためいつもの感じでこなしてしまっていることを反省した。

授業者が何を身に付けさせたいかという信念のもと、生徒へ助言していく重要性を確認した。

この研修を活かし、全県研究協議会で「一人一人の子どもを主語にした学びの実現に向けた授業づくり」をテーマに授業提示をさせていただいた。

## 主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり

### —知的障害のある児童生徒への「教科別の指導」と授業改善—

福祉科 教諭 中屋 愛

#### 1 はじめに

共生社会の実現を目指している今日、障害の有無にかかわらず、学習に対する苦手さや困難さを抱えている生徒に出会うことはある。さまざまな背景や特性をもつ生徒たちに対し、どのような授業づくりが効果的であるのか、その視点やポイントを学び、自分自身の授業改善のヒントにしたいと考え受講した。

#### 2 日程

(1) 実施日 令和7年7月4日(金)

(2) 実施場所 秋田県総合教育センター

(3) 研修目標 知的障害のある児童生徒への「教科別の指導」における、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりと授業改善のポイントについて学ぶ。

(4) 研修内容 講義・演習：茨城大学教育学部 教授 新井 英靖

##### <主な内容>

- ・ストーリーのなかで協働的に学ぶ
- ・「深い学び」につながる単元学習のつくり方 … (例) 生活科/社会科
- ・「見方・考え方」を働かせる授業づくり … (例) 音楽科
- ・保健体育の「本質」と授業づくり
- ・特別支援教育における個別最適化された学びと ICT の活用・実践例

#### 3 所感・感想など

主体的・対話的で深い学びに導くために、生徒たちが「楽しい」と感じることはもちろんだが、まずは生徒が自ら「やってみたい」「やってみたくなる」ストーリーや状況・仕掛けをつくるのが重要であった。特に、インクルーシブ教育では、教材づくりが命であり、日常生活でありえるストーリーをつくるのが大事であると学んだ。やはり、「やってみたい」という内発的動機づけは、持続性や自己有用性にもつながると強く感じた。日頃の生徒たちの会話や様子から興味・関心を察知して、福祉と関連させたストーリーづくりをしてきたいと思った。

また、教科で学んだことを活用する時間があることで深い学びへとつながる。高等学校では、特別支援学校で行われている作業学習はないものの、課題研究や総合的な探究の時間などで活用していく仕掛けづくりはできるのではないかと感じた。そのためにも、自分自身がそのような視点を意識し、想像する力を鍛えていきたいと思う。

講義の最後に紹介された、特別支援教育における ICT の活用について、病弱教育や病院内学級、不登校児への実践例が非常に印象的であった。これまで、「個別最適な学び」と ICT を関連付けて考える機会がなかったため、ICT が学びを深めるためのツール、さらには個別に進度を調整するためのツールであるということを確認し、自分の授業の中でも活用方法を工夫していきたい。

## 令和7年度 校内研究授業の概要（指導主事学校訪問で実施）

### 1 訪問日

令和7年10月22日（水）

### 2 訪問者

高校教育課	指導主事	大  渕  亮（工  業）
高校教育課	指導主事	物  部  長  幸（国  語）
保健体育科	指導主事	小田島 英  巨（保健体育）

義務教育課	指導主事	畠  山  公  次
北教育事務所	指導主事	村  井  啓  子

### 3 令和7年度授業改善重点事項 取組テーマ

「生徒がワクワクしながら学べるような授業デザインの工夫

～タブレットを活用して生徒の思考を深める授業展開～」

<具体的な手立て>

- ① 自らの思考を深めるため、生徒自身の疑問をICTを使って視覚的に整理させる。
- ② 協働学習やグループ活動等を通じて、個人や班から出された他者の考えに触れながら思考を深めさせる。
- ③ 学習内容を生徒自身の言葉でまとめさせ、「わかった」「できた」という実感を持たせる。

### 4 日 程

校 時	時 間	生 徒	指 導 主 事
SHR	8：45～ 8：55	SHR	
1	9：00～ 9：50	1校時授業	
2	10：00～10：50	2校時授業	学校説明【校長室】
3	11：00～11：50	3校時授業	諸表簿閲覧【会議室】
4	12：00～12：50	4校時授業	指導主事授業参観（研究授業者は除く）
	12：50～13：25	昼食・休憩 35分 ※研究授業該当クラス以外はSHR→清掃後、放課	
5	13：25～14：15	研究授業【工業・国語・保健体育】	
	14：15～14：25	休憩 10分	
6	14：25～15：15	教科別授業研修会【3会場に分かれて研修会】	
	15：15～15：25	休憩 10分	
	15：25～16：10	全体協議【会議室】	

### 5 研究授業

教科	授業者	科目	授業クラス	教室
工業	鈴木清太郎	機械設計B	2年1組	2年1組教室
国語	山崎 静	文学国語	2年5組	2年5組教室
保健体育	野呂裕太郎	保健	2年3組	2年3組教室

## 工業科 学習指導案

日 時 令和7年10月22日(水) 第5校時

ク ラ ス 2年1組(機械科)

授 業 者 鈴木 清太郎

教 科 書 機械設計1(実教出版)

### 1 単元名 (5) 器具と機械の設計 イ 機械の設計

### 2 単元目標

- (1) 器具と機械の設計について仕様の条件を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (2) 安全で安心な工業製品を効率的に設計する方法に着目して、器具と機械に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する。
- (3) 器具と機械について自ら学び、工業製品の設計に主体的かつ協働的に取り組む。

### 3 単元の評価規準

ア 知識・技術	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 器具と機械の設計について仕様の条件を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。	① 安全で安心な工業製品を効率的に設計する方法に着目して、器具と機械に関する課題を見いだすとともに解決策を考えることができる。 ② 設計について科学的な根拠に基づき結果を検証し改善することができる。	① 器具と機械について自ら学び、工業製品の設計に主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。

### 4 単元の指導と評価の計画

時	学習活動	評価規準		
		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	・各機械のメンテナンスの必要性について考える。(本時)		イー① (ワークシート)	
2	・信頼性に配慮した設計方法について理解する。	ア (ワークシート)		
3	・安全性と利用者を配慮した設計について考える。		イー① (ワークシート)	
4	・環境を配慮した設計について考える。		イー② (ワークシート)	ウ (ワークシート)

### 5 指導

#### (1) 単元観

「器具と機械の設計」については、1学期から2学期までに学んだ「機械に働く力」や「材料」の要素を踏まえながら指導を行い、これまでに学んだことを活かせるような授業を展開していくようにする。また、設計を行う上で技術者としての判断や解決方法についても触れながら指導を行う。

(2) 生徒観

機械設計Bでは、計算する内容を多く取り扱うため、生徒の半分以上が苦手意識をもっているが、機械の設計に興味がある生徒は、クラスの半数以上いる状況である。これらのことを踏まえて、自動車や機械部品などの設計技術について触れながら授業を展開していくようにする。

(3) 教材観

一人1台の学習端末を用いて、生徒同士の意見の共有などを行い、生徒が授業に参加しやすい環境を作るようにする。また、授業プリントと同じものを電子黒板に掲示することにより、生徒が記入する箇所がわかりやすくなり、授業進行にばらつきがないようにする。

6 本 時 (全 4 時間扱いの第 1 時間)

(1) 本時の目標

各機械のメンテナンスの必要性について考える

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・ 学習活動	指導上の留意点 ・ 配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	○メンテナンスについて理解する。 ・ 機器のメンテナンスの事例を見せて、どのようなことを行っているかを理解する。 ・ 本時の目標を把握する。	・ 動画を見せて、メンテナンスの内容について説明する。 ・ 黒板に目標を明示する。 ・ 授業の流れと評価の基準について明示する。	
	<b>本時の目標</b> 各機械のメンテナンスの必要性について考える		
展開① 20分	○各機器のメンテナンス方法を調べる。 ・ 一人1台の学習端末を活用し、各機器のメンテナンス方法について調べ、ワークシートにまとめる。	・ 机間指導を行いながら生徒の学習活動を確認する。	
展開② 20分	○各機器のメンテナンス方法と必要性について考える。 ・ グループワークを行い、調べた内容について意見を出し合い、必要性について、ワークシートにまとめる。	・ グループワークを行う前に手順について説明を行い、4～5名のグループを作る。	イー①【思考・判断・表現】 (ワークシート)
まとめ 5分	○本時の学習を振り返る。 ・ 本時の学習内容をワークシートにまとめる。	・ メンテナンスの必要性について考えたことをまとめ、次の設計の学習につなげる。	

## 国語科（文学国語）学習指導案

日 時：令和7年10月22日（水）5校時  
 対象クラス：2年5組  
 指 導 者：山崎 静  
 使用教科書：「標準 文学国語」（第一学習社）

1. 単 元 名 観点を明確にして文章を読解し、構成や表現の効果を考える。  
 （教材）・第I部 随想（芸術）「真珠の耳飾りの少女」原田マハ  
 ・読み比べ「フェルメールの技を読む」朽木ゆり子・福岡伸一  
 ・補助教材「フェルメールとオランダ黄金時代」中野京子
2. 単元の目標 (1) 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めることができる。  
 [知識及び技能] (1) ウ  
 (2) 他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察することができる。  
 [思考力、判断力、表現力等] B (1) ウ  
 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。  
 [学びに向かう力、人間性等]
3. 単元と生徒 (1) 教材観  
 本単元では、芸術作品である一枚の絵画を紹介する文章を扱い、筆者の体験と心情を織り交ぜた随筆的文章と作者の技術に着目した分析的な対談との読み比べを通して、構成の工夫や表現の効果について学び、読み手の関心を引きつけるための工夫について考えさせたい。また、初読の文章と向き合いながら、学んだことを生かして、観点を明確にして文章を考察する方法を身に付けさせ、汎用的な国語力を育成する機会としたい。さらには、自分が好きなこだわりのあるものについて文章を書くという学びへとつなげ、創造的に考える力を養うことのできる単元であると考えている。
- (2) 生徒観  
 男子3名、女子19名、計22名在籍の生活福祉科のクラスである。全体的におとなしいが、文章とじっくり向き合う姿勢はできており、協働的な学びによって発言が活発になることも多い。学習意欲が高く、素直な反応がみられる。自分の考えを整理して発表すること意識して授業に臨んでいる。
4. 単元の指導計画と評価計画（計11時間）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。((1)ウ)	・「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。(B(1)ウ)	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

次	評 価 計 画 ( 評価の方法 )			学 習 活 動
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 ①			作品に関心をもち、自己を向上させようとしている。(行動の観察)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の目標や進め方を確認し、学習に見通しをもつ。</li> <li>・絵を見た印象を話し合う。</li> <li>・本文を音読する。</li> <li>・全体の展開を把握する。</li> </ul>
2 ② ⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。(ワークシート、発表、ペーパーテスト) (記述の確認)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えることができる。(ワークシート、発表、ペーパーテスト) (記述の確認)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない語句や表現についてチェックする。</li> <li>・文学的な表現に注目する。</li> <li>・前半と後半の叙述の違いを整理する。</li> <li>・筆者が「真珠の耳飾りの少女」の気持ちに寄り添い、フェルメールに肉薄するまでの心情を想像する。</li> </ul>
3 ⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。(ワークシート) (記述の確認)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・対談「フェルメールの技を読む」を読み、内容を整理する。</li> </ul>
4 ⑨ ⑩ 本時		<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察することができている。(行動の観察)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・随筆と対談を読み比べ、文体の特徴や効果について考察する。</li> <li>・「フェルメールとオランダ黄金時代」を読み、観点を明確にして構成や表現効果について考察する。</li> </ul>
5 ⑪			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に粘り強く取り組み、言葉を通して積極的に他者と関わろうとしている。(行動の分析)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の推し」について紹介する文章を書く。</li> </ul>

5. 本時の計画（10／11時間）

(1) 本時のねらい 観点に照らし合わせて、文章の構成や表現の効果を考察することができる。

(2) 展開

	学習活動	教師の支援及び留意点	評価規準（評価の方法）
導入 5分	既習事項を振り返る。 本時の学習内容と流れを確認する。	前時の内容を想起させ、本時の活動内容を確認させる。	
展開Ⅰ 20分	中野京子の文章を読む。  観点に照らし合わせて、整理をする。(個人)  クロムブックの使用 疑問点を調べる。  観点に基づいて、文章を分析し、どのような効果があるのか話し合う。(グループ活動)	自分の意見を明確にし、話し合いが活発になるように促す。  根拠を挙げながら説明できるように促す。	
展開Ⅱ 18分	意見交換した内容を共有する。  どんな人に向けて書かれたか、筆者の意図を考える。	文章の優劣ではなく、目的に応じた特色が重要であることを確認する。  視点や表現の工夫について新たな気づきがないか確認する。	共通点や相違点を確認めながら、構成や表現の工夫に気づき、文章の魅力について考察することができるか。 〔思考・判断・表現〕「行動の観察」発表の様子
整理 7分	本時の振り返りをする。 電子黒板の使用  次回の予告をする。	伝える対象を意識し、独自性のある文章を書くことの面白さを確認する。	

# 保健体育科（保健）学習指導案

日 時：令和7年10月22日(水) 5校時  
 クラス：2年3組  
 指導者：野呂 裕太郎  
 使用教科書：現代高等保健体育（大修館）

## 1 単元名 (3) 生涯を通じる健康 イ. 労働と健康

- 2 単元目標 (1) 労働災害と健康や働く人の健康の保持増進について、理解することができるようになる。(知識)  
 (2) 労働災害と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスク軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)  
 (3) 労働災害と健康、働く人の健康の保持増進について、自他の健康の保持増進や回復、それを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

## 3 単元と生徒

- (1) 単元観 生涯の各段階においては、健康に関わる様々な課題や特徴がある。生涯にわたって健康に生きていくためには、適切な意思決定や行動選択及び社会環境づくりとともに、生涯の各段階や労働における健康課題の解決が必要である。また、労働の形態や環境の変化に伴った健康及び安全の課題は様々であり、それらを踏まえた自他の健康管理、安全管理及び環境づくりをしていくことは重要である。  
 (2) 生徒観 在籍数が10名(男子10名)のクラスである。真面目に授業に取り組むことができる生徒が多い反面、自己の考えをもちながらも、積極的に発表したり、自分の意見を話したりすることができる生徒は少ない。本単元については、本校が専門高校であり、実習等での学習から労働についても考えを深めている生徒は多い。  
 (3) 指導観 労働災害や働く人の健康の保持増進について、自己の将来の職業像と関連付けて、課題の解決方法を具体的に考えることができるように、実際の事例や現代社会における課題に関する資料を教材とし、多角的な視点から考える対話的な活動としたい。

## 4 単元の指導と評価の計画 (全4時間)

時	主たる学習活動	評価規準 (評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①	・働くことの意義と健康とのかかわりについて理解する。 ・労働災害の事例について、その原因を考える。(本時)	①(ワークシート)	①(ワークシート・観察)	
2	・労働災害の種類とその原因について事例をまとめ、労働災害を防止するために必要となる健康管理及び安全管理について考える。		①(ワークシート・観察)	
3	・職場の健康管理や心身両面にわたる対策の重要性について理解する。 ・職場における健康づくりの取組について考える。	②(ワークシート・観察)	②(ワークシート・観察)	
4	・労働と健康に関係する法律等が制定された背景や余暇の有効活用について理解する。 ・生活の質の向上と健康の保持増進について考える。 ・単元の振り返りをする。	③(ワークシート・観察)		①(ワークシート・観察)

## 5 評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量に変化してきたこと、また、労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ② 働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られる事で成り立つこと、労働と健康に関する法律等が制定された背景や趣旨について理解した事を言ったり書いたりしている。 ③ 働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	① 労働災害と健康について、情報を整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他の社会の課題を発見するとともに、個人の取組と社会的対策を整理して、労働災害を防止するための方策を選択している。 ② 働く人の健康の保持増進のための職場の取組について、課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ワークシートに記述したりして、筋道を立てて説明している。	① 労働災害と健康・働く人の健康の保持増進について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組もうとしている。

6 本時の計画

(1) 本時のねらい

- ・働くことと健康とのかかわりについて理解できるようにする。(知識)
- ・労働災害の事例から、その原因を考えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 授業展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価方法
導入 5分	<p>1. 働くことの意義について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「働くことの目的」をワークシートに記入し発表する。</li> </ul> <p>2. 本時の学習内容と目標を確認する。</p> <p><b>本時の目標：働くことと健康のかかわりと、労働者に起こり得る事故原因を考えよう。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の調査結果を示し、同年代がどのように考えているかを伝える。</li> <li>・働くことの意義について簡単に説明する。</li> <li>・人生の多くの時間は労働をして生活していくことを実感できるようにする。</li> <li>・本時の学習内容と目標を提示し、学習の見通しをもつことができるようにする。</li> </ul>	
展開 38分	<p>3. 働くことと健康のかかわりについて考え、まとめる。</p> <p><b>発問1：あなたが、仕事や職場を選ぶ際に重視することはなんですか？</b></p> <p>(グループワーク)</p> <p>① Classroom のグループワークシートに各自の考えをまとめる。</p> <p>② グループで出た項目を整理し、各自で重視する項目1位～4位を各ワークシートに記入する。</p> <p>③ 各自の考えをグループと全体で共有する。</p> <p>④ 働くことと健康とのかかわりをグループで考え、全体で発表する。</p> <p>4. 労働災害の事例について、発生の原因を考え、発表する。</p> <p><b>発問2：映像の遠藤さんが指を失う事故が起きてしまった原因は、どこにあったのでしょうか？</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークの進め方を提示する。</li> <li>・各グループの意見を全体に共有する。</li> <li>・いくつか例を示し、できるだけ多く挙げるよう促す。また、他のグループを参考にしても良いことを伝える。</li> <li>・働くことと健康とのかかわり、健康課題の変化について説明する。</li> <li>・働く上で様々なことが健康に影響することを実感できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことと健康のかかわりについて理解している。【A】</li> <li>【ワークシート】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画と説明文の内容から個人で考え発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画視聴後、事故の具体的な内容を説明する。</li> <li>・事故の原因は、本人の行動以外にも関係していることがある点に気付くよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働災害の事例からその原因を見付け出している。【B】</li> <li>【ワークシート】</li> <li>【観察】</li> </ul>
まとめ 7分	<p>5. 授業の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の授業を受けての感想をワークシートに記入する。</li> </ul> <p>6. 次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の内容の要点をワークシートにまとめさせる。</li> <li>・次回、労働災害を防ぐために必要なことを考えていくことを伝える。</li> </ul>	

令和7年度 能代山本地区高等学校特別支援教育研修会  
(兼 能代科学技術高等学校校内研修)

教育相談部 伊勢奈緒子

日 時：令和7年10月29日（水） 14:00～16:30

場 所：能代科学技術高等学校会議室（大館桂桜高等学校を会場とするオンライン含む）

テーマ：「就職を目指した進路選択や自己理解に向けた支援

～特別な配慮が必要な学生に向けて～

参加者：能代山本地区高等学校の教員、能代山本地区の中学校の教員、関係機関等

次 第：1 開会行事

2 実践紹介（能代松陽高等学校 中嶋 亘加先生、小林 遙先生）

3 講演「就職を目指した進路選択や自己理解に向けた支援～特別な配慮が必要な学生  
に向けて」

（講師 秋田障害者職業センター主任障害者職業カウンセラー 中村 絢子氏）

4 質疑応答

5 閉会行事

## 2 実践紹介

### 【3年間を通した課題】

① 中学校からの情報提供の必要性：生徒が安心して生活するために、中学校での取り組みを引き

継ぐことは重要であり、事前かつ早めに正確な引き継ぎを要望する。

② 学校全体としての特別支援に関する学校設備：ハード面（施設）の整備は県全体で取り組むべき課題。早めの引継ぎがなければ、ハード面の対応は難しくなってしまう。

③ 高校選択のアドバイス：中学校は倍率に関係なく、生徒にとって最も適切な生活場所を検討し、保護者へ情報提供すべき。卒業後のことも考えたアドバイスを期待する。

④ 全職員が特別支援教育への関心を持つこと：多様性の世の中で、継続連携した特別支援を行うことが大切である。

## 3 講演

① センター業務の紹介：障害者支援、事業主支援、関係機関支援の3つを柱とし、働き始めたい方や、就職後うまくいっていない方の相談や就職に向けたトレーニングを行う。職場復帰支援も実施。相談内容の例として、障害のある方からは「得意不得意の整理」「障害を会社に伝えるべきか」、事業主からは「任せる仕事」「雇用を始めたなら何をすべきか」などがある。地域やハローワーク、就業生活支援センターなどと連携して支援を行っている。

② 学校から職業への移行について：高等学校の通常学級に在籍する特別支援を必要とする生徒は2.2%（40人クラスで少なくとも1人）と調査結果が示された。発達障害等の生徒は、進学・就職しても環境に馴染めず中途退学や退職するケースがあり、孤立する可能性がある。高校段階で自己理解を促し、対処法を学ぶ指導支援の充実が必要である。

③ 学校教育における合理的配慮について：合理的配慮の提供は、昨年より公立・私立を問わず義務化された。提供プロセスは、本人・保護者からの困りごとの伝達から始まり、対話を通じて調整・決定し、提供後も定期的に評価・見直しを行う。学校教育での合理的配慮事例として（提出物の遅れ、整理整頓の苦手さ、面接対応）が挙げられる。それぞれの背景要因（教師の

話を聞いていない、記憶の弱さ、イメージの難しさ、プレッシャーなどを捉えることが重要だと強調。学校での取り組みは、職場での合理的配慮と繋がりが高く、在学中の実践の蓄積は本人や企業にとって役立つ。

④進路選択や自己理解にかかるアプローチ：発達特性を持つ生徒にとって、自己理解を深めることや客観的に自分を見ることは難しい。

→本人の考え・思いを引き出す工夫

- ・言葉の理解度に合わせて、分かりやすく、ゆっくりと伝える。
- ・ワークシートや紙、ホワイトボードなど視覚ツールを活用し、情報を整理する。（対面でのプレッシャーを軽減する効果もある）。
- ・イエス/ノーやA/B/C選択など、答えやすい質問から始める。
- ・安心感を持てるよう、信頼関係を築き、話せることだけで良いと伝える。

→発言を促すテクニック（傾聴）

- ・相槌、話のキーワードの繰り返し、気持ちの反復、要約など。

→参考ツール

- ・障害者プログラムで利用されている「特性チェックシート」（学校生活スキル等）や「ナビゲーションブック」（自己紹介書）。ナビゲーションブックは、セールスポイント、苦手なこと（対策とセット）、健康面、配慮を求めること等を記載し、自己理解と他者への説明に活用される。

→適切な自己認識を持つことの難しさ

- ・困り感がない（日常になっている）、家庭や学校でサポートを受けてできている、または「好きな仕事」と「向いている仕事」が一致しない、といった状況が考えられる。自己理解を深めるためには、職業に関する経験と、周囲からの客観的なフィードバックが重要。体験的な学習だけでなく、その後の評価や分析、フィードバックを丁寧に行う必要がある。働く上での評価基準は、「課題の完遂」「ミスの許容範囲」「標準的な作業量の達成」の3点である。また、職場のルール理解と働く目的の理解も重要である。問題となる状況の原因は、**個人と環境の総合作用**にあり、本人だけでなく環境にも目を向けて現状を捉える視点が重要である。

⑤進路選択における就労支援機関の利用：地域にはハローワーク、就業生活支援センター、発達障害者支援センター（フープ）、相談支援事業所、秋田若者サポートステーションなどの支援機関がある。職業センターは、卒業年度の生徒を主な対象とし、就職活動が具体的に始まっている段階から利用可能となる。職業評価（能力や適性検査）を行い、就労へ向けた方向性を定め、必要に応じてジョブコーチを派遣して定着支援（フォローアップ）を行う。機関連携においては、課題となる情報も含め、必要な情報を早めに正確に引き継ぐことが、会社や支援者が留意点を明確にし、職場で対処方法を検討しやすくするために大事である。

○まとめと感想

就職した生徒が、卒業後定着できるかは、送り出すときも送り出した後も常に気にしていることであり、そのためにも、高校時代に何ができるかについて改めて考える機会となった。参考になるツールやアプローチの仕方について、また、相談先などを紹介していただき、我々が知っていることが生徒の選択に影響することがあると感じ、今回お話を伺うことができありがたかったと思う。

近年、様々な場面で「自己理解」の重要性について目にするが、客観的な目で判断する力をつけることは容易ではない。しかし、働くうえでの3つの評価基準などは、実習の多い本校において学習の機会に考えさせられることでもある。そのため、体験的な学習の後の評価や分析、多角的なフィードバックを実践に繋げ、自信をもって踏み出せる生徒を育てていきたい。

令和7年度の救命講習会は、8月28日（木）と29日（金）の2日間実施することができました。2日間でのべ59名の職員に参加していただき、活気のある講習会となりました。また、今年度から事務職や技師の方にも参加いただき救命方法を身に付けていただきました。忙しい中、参加いただきありがとうございました。

### 令和7年度救命講習会

- |         |   |
|---------|---|
| 1 目 的   | 緊急時の応急処置に関する知識とスキルを身に付ける。   |
| 2 日 時   | 8月28日（木）15：45～16：45（参加人数29名）<br>8月29日（金）15：45～16：45（参加人数30名）              |
| 3 場 所   | 会議室   |
| 4 講 師   | 能代山本広域市町村圏組合消防本部職員  |
| 5 対 象   | 職 員   |
| 6 そ の 他 | * 二日間のうちどちらかの日に参加していただきます。<br>* 動きやすい服装で御参加ください。<br>* 基本講習のため修了証は発行されません。 |



## 編 集 後 記

多忙な校務の中、多くの先生方から研修の貴重な原稿をお寄せいただき、感謝申し上げます。

「令和7年度研究紀要 第5号」を発行できたことをお礼申し上げますとともに、今後の業務にご活用いただける事を願っております。本当にご協力ありがとうございました。

研修部

# 令和7年度

## 研究紀要 第5号

発行 令和8年3月

秋田県立能代科学技術高等学校

〒016-0896

秋田県能代市般若町3-1